



BP3プログラム“幼児とともに！”を実施してみても

特定非営利活動法人子育てネットワーク志賀うりぼう 理事長 他谷 恵津子

BP3プログラム実施まで

2024年1月16日から2月13日にかけて、念願だったBP3（“幼児とともに！”）プログラムをついに実施することができました。10月末に養成講座を受講した後、何とか今年度中にやりたいと思って、前年の11月に一度計画したのですが、参加者が既定の6人に足りずに断念したこともあって、やっとこぎつけた開催でもありました。

NPがやりたい

私は、2008年にNP（Nobody's Perfect）プログラムのファシリテーターの資格を取り、それ以来、1年に1回はNPを実施してきました。NPは子育てに困難を抱える母親にとって、相談事業の中でも特に効果があるものだと考えています。NPでできた地域のお母さんグループのつながりが、おたがいの子育てを支えるだけでなく、さらにエンパワーメントされて、学校PTAや、子ども会、子ども食堂や冒険あそび場の運営等で活躍される姿を長年見てきて、NPのすばらしさを、つくづく感じておりました。BP1プログラムができた後、BP1を定期的にも実施しながら、同時に年1回のNPを計画してきましたが、コロナ禍で託児が困難になったことで、NPの実施ができなくなりました。「NPがいいよ」と体験者に聞いている幼児のお母さんたちからも、「まだやってもらえないの？」という声もいただきました。

コロナが5類扱いになり、そろそろ来年あたり、NPを再開しようかと思っていた矢先、原田代表からのBP3制作のお話がありました。生まれたばかりの兄弟がいる幼児の親向けのBP2の継続実施が難しく、NPもできなかった私は、この新しい幼児の親向けのプログラムができることが嬉しくて、二つ返事で制作グループに入れていただきました。

地元でBP1・BP2ができない

私は、滋賀県大津市の北部（関西の方ならご存じの）琵琶湖バレイのふもとに住んでいます。町内にある、木戸市民センター内に「木戸つどいの広場にじっこ」という地域子育て支援拠点を2008年に立



ちあげ、大津市の指定管理施設になった今も施設長として運営に携わっています。もともとは「にじっこ」の立ち上げ準備をしていた時にになにか支援の考え方の核となるようなものはないかと思っていたころに出会ったのが、NPの「ノーバディーズパーフェクト（完璧な親なんかいない）」というコンセプトでした。それ以来、BP1、BP2、オンラインBP1と関わり続け、今回のBP3となりました。ただ、BP2は1回挑戦してみたものの、対象者が少ない地域のため、参加者が集められず、継続実施ができていません。

京阪神のベッドタウン化している人口34万人の大津市ですが、私が住んでいる北部地域は人口約2万人、市内でも特に高齢化率が高いところで、0～4歳児の人口が現在は500人に満たない地域です。しかも保育園に入園する子どもが年々低年齢化しており、家にいる子どもは数えるほどになってきています。始めたころは「にじっこ」で実施できていたBP1も、現在は大津市の委託を受けて市の中心部である浜大津で定期的にも実施するようになりました。中心部の方は、マンションの建築ラッシュが続き、若い夫婦が京阪神から移住してこられているので「知り合いがない地域で赤ちゃんが生まれて不安だったが、BP1でお友だちができて良かった」といつも良い評価をいただいています。BP1終了後も近くの商業施設や支援センターで定期的にも集まっておら

れるという話もよく聞きますし、最近では大津市で配布される子育てガイドに「BP1」が紹介されるようにもなりました。しかし、私たちの住む地域から浜大津へは道が混んでいなくても車で30分以上はかかります。公共交通機関の便も悪く、浜大津のBP1に参加される方はほとんどありません。そのような状況で、自分たちの地元で支援ができないのは寂しいと思っていましたので、対象児が1歳以上の未就学児の親であるというBP3は、参加者の枠が広がり、ひろばで実施できる可能性が広がったことがとてもありがたく、ぜひ取り入れてみたいと思いました。

BP3の実施に至るまで

BP3が完成したのが、年度途中だったので、年間計画で動いている「にじっこ」で、いきなり実施するというわけにもいきません。ただ、制作過程に参加させていただいた者の一員として、なんとか実際に1回やってみてプログラムの成果や課題をみつける手立てになればという思いで、個人的にでもなんとか実施したいと思いました。

「にじっこ」で実施すると、保育が必要な人が多くなり、保育料がかかってしまうので、まず、保育の不要な幼稚園ならどうかと考えました。近くの市立幼稚園のPTA会長に相談して協力を仰ぎ、11月にBP3の募集をかけました。少子化でしかも保育園に行く子どもが多くなった結果、1学年が20名を切るくらいの幼稚園です。それでも、8人くらいの参加者はあるかと期待していたのですが、就労支援の延長保育を利用してお仕事をされる方も多く、結局、5人しか集まらず中止となりました。

無理かな、もうあきらめようかなと思った時に、たまたま「にじっこ」のイベントで「焼いも」をした時に参加されていた、あるサークルのお母さんに話をしたところ、「ぜひ、参加したい。自分たちのサークルで人集めができないかな。子どもが小学生になってしまうので、ぜひ今年度中に実施を！」ということになりました。結局、そのサークルの代表者（お子さんは小中学生で、NPの経験者）の方に協力いただき、会場の手配とサークルメンバーへの声かけと、アシスタントまで引き受けてくださいました。11月に中止になったBP3への申し込みをされていた幼稚園のメンバーにも声をかけたところ、4人が参加され、結局、参加者9人でスタートすることができました。時期的にもインフルエンザやコロナにかかったり、小学校の説明会とぶつかっ

たりと、欠席される方もありましたが、どの方からも「欠席するのがとても残念です」というようなコメントをいただけるようなプログラムとなりました。

BP3をやってみて

実際にBP3プログラムをやってみて感じたことは、お子さんと離れた母親だけのプログラムということで、参加者が女子高生にもどったかと思われるほど、生き生きと楽しそうに過ごされていたことです。また、お互いのことによく気づき、BP1以上に助け合いが見られたこと、ファシリテーターとしては計画通りに進めているだけなのに、参加者自身で驚くような気づきをされていたこと、毎回のチェックインで、この1週間でやってみたことや気付いたことの報告をされるのですが、その内容がかなり深かったこと、またその報告を他の人に話したり他の人の報告を聞いたりすることをとても楽しみにされていたことでした。お子さんの発達のことや性格のこと、自分自身のこだわり等でなかなか周囲とうまくいっていないという方もおられましたが、ペアやグループで自分の思いを話すことで、どんどん心を開いていける様子を目の当たりにし、会話の中で自分で気づきを得ることができるのだと感じました。毎回のDVDの内容も、それぞれの体験を振り返った後なのでごく心に響いたようでした。

参加者からは、お互いに対してのリスペクトが感じられました。「子育てについて安心してゆっくり話しができ、考えられたことが良かった」「話を聞いてもらうことで心が落ち着いた」「自分の子どもに対する接し方を考えるようになった」「子どもと一緒に成長していきたいと思った」というような感想をいただきました。

初めてのプログラムで、制作過程に関わったにも関わらず、トピックの順番を間違えたり、飛ばしてしまったり、時間管理がうまくできなかつたりといった多くの失敗がありました。また、少し狭めの部屋を借りてしまったので、プロジェクターや椅子の配置など、最後まで毎回変更したりする試行錯誤もありました。細かいところまでトレーナーの方にアドバイスをいただき、改めて部屋の広さの重要性にも気づきました。LINEグループを作る話になった時、LINEのグループに入れることが嬉しいと言われた方がおられたり、最終日のBP3を終えた後、みなさんが誘い合わせてランチに行かれる楽しそうな姿を見て、いつか定期的に開催したいと心から思いました。